

ざんもちいせき

山持遺跡6区 現地説明会 資料

平成18年10月8日(日)午前10時～

島根県教育庁埋蔵文化財調査センター

1 はじめに

埋蔵文化財調査センターでは、国道431号(東林木バイパス)改築事業に伴い、平成13年度より発掘調査を行っています。今回の説明会で紹介する山持遺跡は、平成14年度から発掘調査を開始し、今年で5年目になります。本日は、現在調査を行っている調査区(6区)から出土した古代の板絵等をご覧いただきたく現地説明会を開催しました。

2 山持遺跡とは？

山持遺跡は弥生時代から江戸時代にかけての大規模な集落遺跡です。特に弥生時代～古墳時代前期の集落は、これまでの調査によって、西林木町から里方町に広がる東西約700mの範囲に及び、出雲平野における弥生時代の集落遺跡としてはかなり大規模な部類に入ることが分かっています。遺跡は現在の山持川周辺の高まった場所(微高地)にあり、今回の調査区はその高まりから北へやや下がった場所にあたります。

3 平成18年度のこれまでの成果

6区では、現在の地表面から深さ1.5m～2m程掘り下げた場所から、弥生時代後期の土器溜(土器が集中して見つかった場所)、奈良時代～平安時代の道路状遺構が発見され、出土品として古墳時代中期頃と考えられる大量のガラス小玉、奈良時代～平安時代の板絵や墨書土器があります。また、3m程掘り下げた砂の層からは縄文時代～弥生時代中期の土器が発見されています。

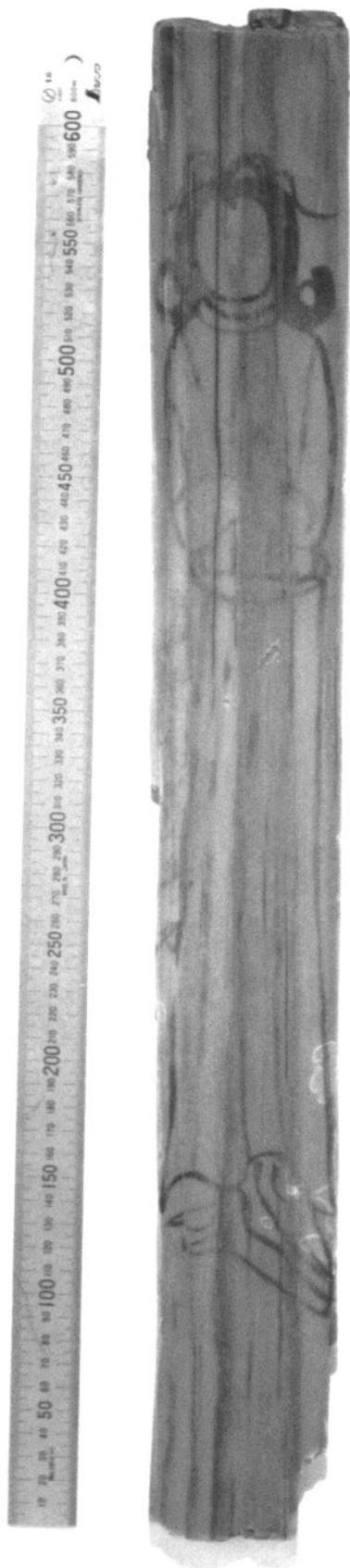
4 発見された古代の板絵等について

調査区の南側には、古代の沼か池状になっていた窪地があり、その中に堆積した土の中から4枚の板絵や墨書土器が発見されています。また、この窪地を横断するように幅約3m程の南北方向に伸びる古代の道路状遺構が造られていました。

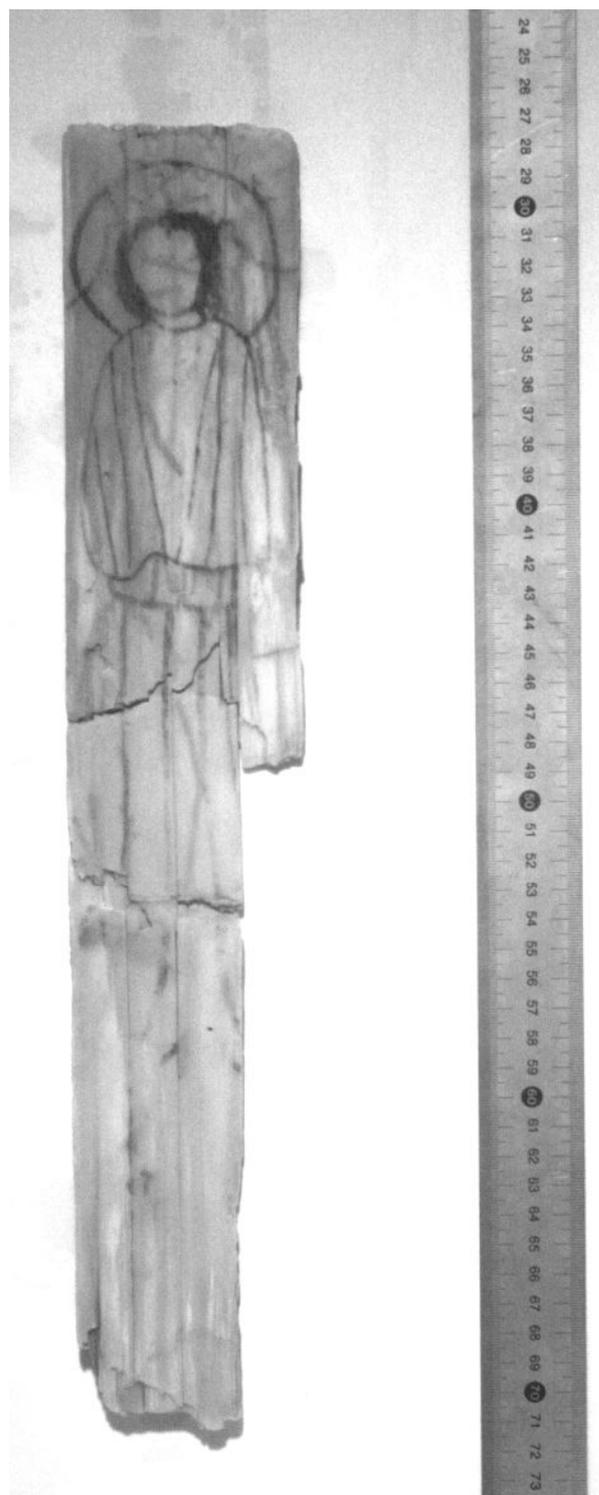
- ① 1号板絵—人物の腰のあたりが描かれているものです。
- ② 2号板絵—髷(マ)を結った唐風の服装の一般女性の全身像が描かれています。
- ③ 3号板絵—女性か若い男性と思われる像が描かれています。
- ④ 4号板絵—吉祥天女(チゾウテンニヨ)と考えられる像が描かれ、仏教的な板絵になります。
- ⑤ 墨書土器(墨で「国益」「益」「西家」「華?」「×」と書かれています。)

5 おわりに

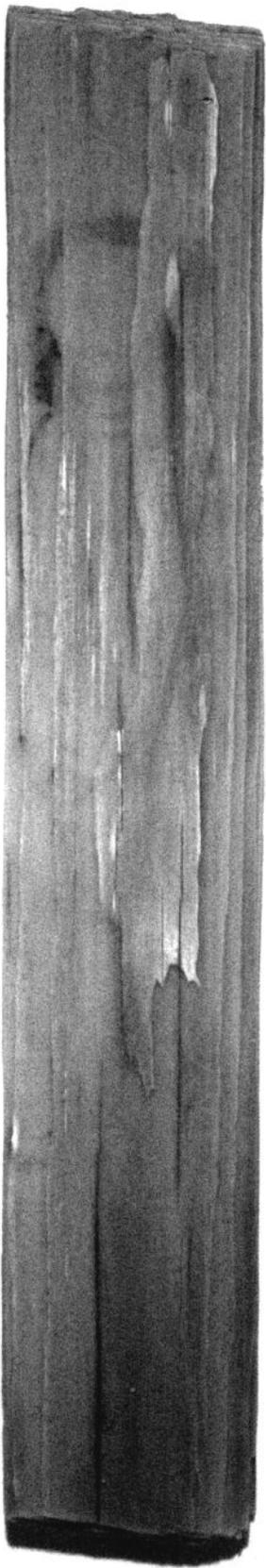
今年度の調査は、12月まで継続して行いますので、新たな発見があると思います。調査成果がありましたら、また現地説明会を行いたいと思っておりますので、今後ともよろしくお願ひします。



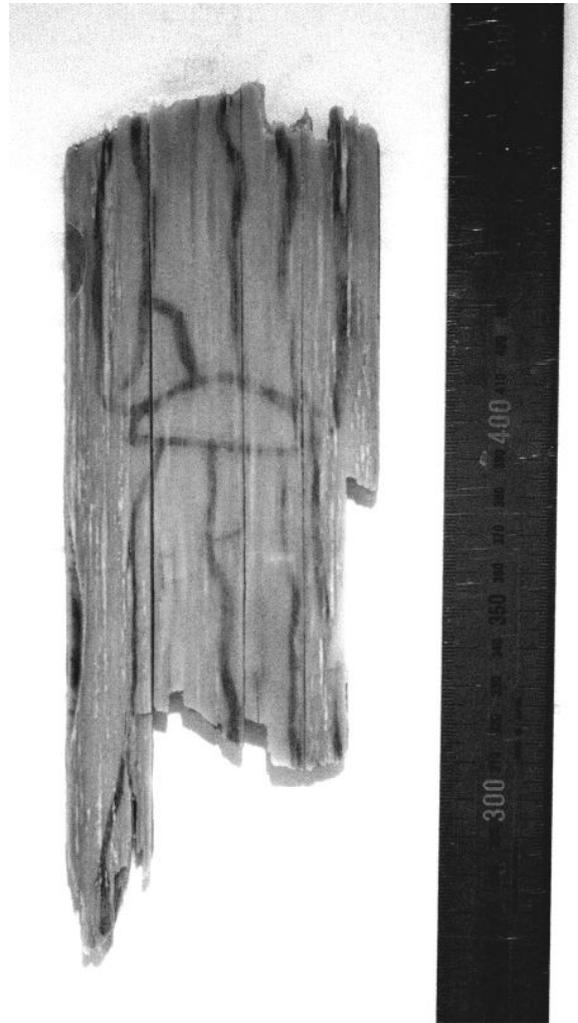
←2号板絵 (赤外線写真)



↑4号板絵 (赤外線写真)



←3号板絵 (赤外線写真)



1号板絵 (赤外線写真)

年代	時代		山持遺跡6区の様相		主な出来事			
			遺跡の様子	主な出土品	出雲	全国		
200	弥生時代	(後期)	土器溜まり	弥生土器	四隅突出型墳丘墓が造られる。	前方後円墳が造られる。		
300		(前期)					方墳が造られる。 三角縁神獸鏡が古墳に副葬される。	
400	古墳時代	(中期)		赤褐色ガラス小玉	大寺古墳が造られる。		最大の前方後円墳が造られる。	
500				土師器 須恵器	大念寺古墳が造られる。			
600				(後期)				遣隋使
700	古代	飛鳥時代		井戸跡？ 道路状遺構 (沼状の窪み)	土師器 須恵器 墨書土器 板絵		出雲国府 出雲国分寺	645年大化の改新
800		奈良時代						710年平城京へ都を移す。
900		平安時代	794年平安京へ都を移す					

山持遺跡 関連年表